

千の魔を紡ぐ竜

カージ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

その男は、飢えていた。

その男は、焦がれていた。

その男は、待ち望んでいた。

ただ、その力をぶつけるための、強敵の存在を。

これは、無限の可能性を秘めた世界のなかで、ただ己の全力を振るうための舞台を探す、一人と一匹の物語。

目次

P r o l o g 〱それは始まる少し前〱

1

Prologueそれは始まる少し前

？
《マギカ・グラディエーター・チャンピオン》
魔闘王》アレイスター・フルクトース

〔へUBM〕【死告熊鬼 グリムグリズリー】が討伐されました】
【MVPを選出します】
【アレイスター・フルクトース】がMVPに選出されました】
【アレイスター・フルクトース】にMVP特典【死告熊爪 グリムグリズリー】を贈与します】

あたり一面がクレーターだらけになった荒野に、その男は立っていた。

「はあ・・・」

「どうしたのじゃ、ため息なんぞついて」

となり立つ黒ゴスの少女が、心配そうに声をかけてくる。

「いや、最近は手応えのある敵も少なくなってきたなと思つてな。俺たちの目的も果たせやしない」

「そうじゃな。何せ、ワシが超級スペリオルになってからは、ワシ等の必殺スキルすら出番がなくなつてしまつたからのう」

「いつそ、アルター王国にでも行つてみるか？ 確か、ドライグが未だに怪しい動きを続けているつて話だろ」

「異論は特にないぞ。主様の行くところがワシの行くところじゃ」

そこで彼女はふと思ひ付いたかのように訪ねる。

「しかし、なぜアルターなのじゃ？ 別にドライグでもよくはないか？」

「理由は3つ。1つ、ドライグは機械技術が特産の国。俺には合わん。1つ、アルター所属のクランにリアルの親戚がいる。戦争参加には所属国家の各種ランキングの上位30位以内に入っている必要があるからな。ドライグに伝はないんだ。1つ、何より獣王にリベンジがしたい。だから、アルターの側に付くんだよ」

「なるほどの。では、早速向かうとするかの」

納得したように頷いた少女は、主様と呼んだ男を振り返りそういった。

「ああ、そうだな。ここからなら、飛んでいける距離だろう？ ハーカ」
「うむ」

ハーカと呼ばれた少女は、とたんにその姿を崩した。その体は、巨大な三つ首の黒竜へと変わる。そして、主様と呼ばれた男を背に乗せて、空へと飛び去った。

後には、穴だらけの荒野が残るのみである。

ーその日、アルター王国には一人の超級が新たに所属することになった。それは、後に『不屈』の名を得る男がこの世界に降り立つその日のこと。超級の名は、『アレイスター・フルクトース』。レジエンダリアから来たその男は、アルター王国の新たな希望の1つとなった。それにより、アルター王国は本来の歴史少々違った歴史を辿ることになるが、それはまた別のはなし。今から語られるのは、彼がどのような物語へと関わったのか、そしてどのような物語が綴られることになったのか。ただ、そのみである。